

日誌

明治十一年
三月

三函	十八架	二冊	第三類
----	-----	----	-----

国立公文書館	
分類	
配架番号	2 A
	31-6
	誌 131

129

明治十年三月十二

一昨夜山ノ片見和用ヨリ受取候件、

内務省工事石川縣知事民暴等云々候

内務省何養父ノ子及前吏云々登云々候

外、思山ノ通九ノ山ノノリ云々候

ナリボアノノード候痛等痛候、急事候、今人

海修ノ、黒川等也所等ノ事

本口尾崎大書院及所用ニ至急ニ西条行在所、發

足候事、後正元所等ノ事

十四日

・町奉行 大森永井ヨリ 受取候件

外務者ヨリ上申 祝砲交換条例ノ件

陸軍省ヨリ四書ナキ 園主ヨリ村田修政様

宛御高ヨリ芝野老様ヨリ藤井子ノ件

三月二日任陸軍中佐並佐官ヨリ及靜岡縣

大森省ヨリ等白井驥府務税高知ヨリ件ノ来ル

・町奉行 竹中家ヨリ 受取候件

十四日

本日渡出 証文急行ニテ大改表 爲月ノ迄

旅費並ヨリ高ナキヨリ金百六拾五圓迄ニ候事

藤井惟勉 月給並額ヨリ 受取候事

十九日

町奉行 人稱業 式受取候件 毎ノ奉

宿直并當切手百二十枚受取候事

十六日

・渡出 証文 証表 証文 白井子ノ出立

・町奉行 爲月ノ迄

十七日

一昨者直人より受取、件

十八日

一日曜日記事

十九日

一頗晴龍川長負所勞之身

渡りて、角寺に松根権太師、其松根力

本日

一晴暉、昨者直人より受取、件

件

廿一日

一雨天、昨者直人より受取、件

昨者直人より受取、件

件

廿二日

一昨者直人より受取、件

件

廿三日

一昨者直人より受取、件

件

廿四日

雨天如常道人より多分休し

廿五日

休日宿直人より居座の故

廿六日

晴時宿直人より引交し

吉原より友人より物事あること

有る事多しと云ふ事あり

黒川より也来し夜宿の事あり

廿七日

一昨より宿直人原田君溪川に件し
西の方より来し中

廿八日

一頃晴時宿直人井上鷹身引交し

休日より休む事多しと云ふ事あり

西の方より来し中

廿九日

一毎記事

三十日

一廿一日

一

丹江口

二月

一、身

二
b

[illegible]

42

靜園居士跋

任少等屬

志村貞銀

三
日

神武天皇祭日 二月休日

四
月

一、所寄之信里，八、九、下、宴、請、當、亮、輝、主、一、
和、波、身

田汝舟

五

櫻井 中道 先生

六日

一得回生司法者一師曰書亦此為人主而
考武八亦下三人鳴地將見書留郵使也

七
日

中志之澤名藤田門外一件 竊之視

局々居年々成老多々其ハ河内細三
所等々所々々中西雅吉仰願多々其

八日

一日曜口宿直人井上藤吉

九日

一昨夜直人宿直人常々々々其

十日

一今夜直人

十一日

一里川等々所々々々々々々々

本日行国宮崎長谷川等々視廣新少編
力獲阿少張初中付其等々々々々々々々

十二日

一友等鏡山々所々々所々々

十三日

一萱野宜隆所々々々々

十四日

一瀬川等々所々々所々々々々々々々
其等々々々々々々々々々々々々々々々

十九日

一 休日宿方之人移葉屋々 願之

十九日

一 所方より移利千村

十七日

一 本口任云等屋屋田移欠市溪神親廳

十九日

一 寺池事

十九日

一 寺池事 寺式務より依願先

寺用御事

十九日

一 寺式務より 願之

十九日

一 寺式務より 願之

十九日

十九日

一 寺池事

十九日

一 寺池事

廿三

一多記事

廿四

一多記事

廿五

一多記事

廿六

一多記事

廿七

一多記事

一多記事

廿八

一多記事

一多記事

廿九

一多記事

三十

一多記事

五月

一仙波久弥所勞之事

二日

一西多行在所居處、其地、新中、名、
所勞、人、片、思、忠、教、本、日、遊、視、高、所、用、掛、
之、史、修、事、一、本、各、川、保、殿

三日

一、片、固、忠、教、遊、之、視、高、所、用、掛、
付、之、史、修、事、一、本、各、川、保、殿、
付、之、史、修、事、一、本、各、川、保、殿、
付、之、史、修、事、一、本、各、川、保、殿、
付、之、史、修、事、一、本、各、川、保、殿、

中、修、事

四日

無記事

五日

無記事

六日

休日

七日

無記事

八日

一毎記事

九日

一廿二記事

十日

一宮崎より高知へ通電する事
月迄の事

十一日

一廿三記事

十一日

一廿四記事

正三

一休

十三日

一十四記事

十四日

十五日

一十五記事
高知より高知へ通電する事
月迄の事

十六日

一十六記事

十七日

一 馬川等々系事

十六日

一 安部事

十九日

一 口り

廿日

一 多部事

廿日

一 口り

廿二日

一 鷹山等々系事

廿三日

一 無部事 本。馬部記官山初候事

廿四日

一 無部事

廿五日

一 口り部事

廿六日

一 無部事

廿七日

一
口
新

ハ
ン

二、記事

ア
カ

一、
志記事

可

一法刻石以爲中曰信事

長野縣士族

鈴木重任

但石田等外之海之月俸概内給與之事

任事處

卷之四

徑十等處

齋友知三

一自月緯西經興華

鷹身三

二

一每記事

六一

一升と大書紙を有るに而多の在る

明の御高を奉りて山々物ありて事

二日

一海軍の御高を奉りて山々物ありて事

三日

一海軍の御高を奉りて山々物ありて事

四日

一海軍の御高を奉りて山々物ありて事

五日

一海軍の御高を奉りて山々物ありて事

一海軍の御高を奉りて山々物ありて事

六日

一海軍の御高を奉りて山々物ありて事

一海軍の御高を奉りて山々物ありて事

一海軍の御高を奉りて山々物ありて事

一海軍の御高を奉りて山々物ありて事

一海軍の御高を奉りて山々物ありて事

七日

一海軍の御高を奉りて山々物ありて事

一海軍の御高を奉りて山々物ありて事

一 志村の足利氏に仕へる事

八日

一 志村の足利氏に仕へる事

九日

一 志村の足利氏に仕へる事

一 志村の足利氏に仕へる事

十日

一 志村の足利氏に仕へる事

十一日

一 志村の足利氏に仕へる事

一 志村の足利氏に仕へる事

十二日

一 志村の足利氏に仕へる事

十三日

一 志村の足利氏に仕へる事

一 志村の足利氏に仕へる事

一 志村の足利氏に仕へる事

十四日

一 志村の足利氏に仕へる事

一 志村の足利氏に仕へる事

十五日

一本、井上書、他書、事、和、多、張、良、少、所、
七、多、多、属、多、和、出、所、中、
市、井、信、幹、所、書、方、一、所、和、人、
秘、葉、一、等、属、所、書、方、一、事、

十六日

一、各、局、宿、直、是、日、之、一、以、之、事、方、一、之、
所、多、事、方、一、之、名、宿、直、之、事、方、一、之、
事、

十七日

一、無、化、事、

十八日

一、所、書、池、上、白、豆、州、熟、少、海、陽、系、下、信、
一、所、書、池、上、白、豆、州、熟、少、海、陽、系、下、信、
一、所、書、池、上、白、豆、州、熟、少、海、陽、系、下、信、

方、多、多、属、多、和、出、所、中、

十九日

一、無、化、事、

二十日

一、無、化、事、

廿一日

一 志村 貞澄 所著 一

廿三

一 志村 貞澄 所著 一

廿三

一 志村 貞澄 所著 一

廿四

廿六

一 志村 貞澄 所著 一

廿六

一 志村 貞澄 所著 一

廿七

一 志村 貞澄 所著 一

廿八

一 志村 貞澄 所著 一

廿九

一 志村 貞澄 所著 一

記事

七月一日

耀

二

張用拙於本重任辭表以飲出矣

二

四

一 任七等属

小原澤重雄

東多前年民

大野見松之丞

一 法制局御用掛申付候事

但取板等外准三月俸拾圓給與候事

二鷹見達三所芳一師あん

一瀉以充熱海渴今二面皆順中欽有八

丁酉年

五

一
每
事

六

一、
二、
三、

子

[illegible]

2

唯々

九
口

一
年
記
集

十

大野具松之丞

天書紀
官年所
三員
趣所
京新

出建中府候車

三等馬廐田所及本多戶勒限耳

一

一、本行尾崎大書院、臣西京より出張する事
賜り、所用掛大所、具和、多、少、中、外、事

小原澤重雄所著の序文

千村五里所著一風也

$$\frac{4}{2}a$$

千村中乃所爲之年

熊本殿一可等之事

熊本殿一可等之事
十三日

多記事
十四日

多記事
十五日

多記事
十六日

大森様一平
戸敷様之國守の事
十七日

大森様一平
戸敷様之國守の事
十八日

一 中村省之町奉行平八郎調
在常陸守町奉行

五

一 町奉行

一 町奉行

一 町奉行
昨方町奉行向方町奉行出公
之町奉行出公

サ

一 町奉行
町奉行向方町奉行出公

一 町奉行
町奉行向方町奉行出公

一 町奉行
町奉行向方町奉行出公

サ

一 町奉行
町奉行向方町奉行出公

サ

一 町奉行

サ

一 町奉行

廿九日

三十日

本日 聖上 還幸 京都 年

三十日

一千村 西山村 所 所 所 所

八月一日

二日

一本 笠野 宜隆 山梨 縣 正 養 天 病 氣 自

暇相 勉 事

原田 孫 氏 不 幸 之 事

三日

志村 九 等 所 所 所 所 他

四日

二 女 氏 事

五日

六日

徳 本 氏 一 等 所 所 所 所

一 無能年

七

何所之為所為之能人

力

一 丹と大書記名所為之能

十

一 爲大書記名所為之能大所見

松と五條と一能主と百多読三
高所為之能人

十一

一 大書記名丹と大書記名少所為之能
古所為之能

十二

一 大書記名丹と大書記名少所為之能
所為之能

十四

一 大書記名丹と大書記名少所為之能
十

十六日

十七日

十八日

為村瀧川岩溪所夢る

十九日

休

廿日

澤田長齋表名年

任七早

山崎

山崎

右持

廿一日

廿二日

澤田長齋表名年

丹書池所夢る

廿三日

寸四。

一所用掛行係此等よりある得る事
口人宿所あるより官丹事致名毛
七月廿四日より八月十日まで此等
料金五圓形を所する

廿五。

廿六。

一 休る

廿七。

一 竹原白子よりあるより山へ新候事

廿八。

一 龍川長貝所等よりある

廿九。

一 股世重証よりある

三十。

一 鷹為知よりある

三十一。

秘國將士族

秘葉文定

一 法制局所用掛中身候事

但所被判定、准之月俸十二兩給與奉

能事縣立族 本田子利

一 法制局所用紙中付候事

但所被判定、准之月俸十二兩給與奉

九月

一 芝山野道所寄書々々御返

二

一 休

三日

一 四方二所親子内親之薨死去三付四日休

休

四

一 休

一 九リ二ハハ。乃々御事

十

一 休

十

一 二品親子内親王御葬送三付来九十三日休
相成候事

九月廿三日

大正
政
用

九月廿五日

一法用掛大野見之松之近依願法利
る

九月廿六日

東京府幸氏

田内憲鼎

一法制局法用掛申付候事

但及極等あり准レ候事
月俸其用終無候事

九月廿七日

新嘉人山縣西山田由三ノ御心
来り廿九日付より名ツケ式被り
候

九月廿八日

一山縣山縣所其方より御心

九月廿九日

一奉り皇子御名ツケ式被り行

時

日曜。事

十月一日

多記事

二

三

所用掛及多境下市丹学書所等

他

四日

一所等「福葉由寺」西山精

本「所用掛」因毛和以斗

千村所等「由生」

五日

一所等「福葉由寺」

六日七日

多記事

八日

一所等「福葉由寺」

九日

一 行國寺の石塔の形

一 行國寺の石塔の形
中々とある所あり

十日

一 丹上寺の石塔の形
十二日

一 丹上寺の石塔の形
一 丹上寺の石塔の形
一 丹上寺の石塔の形
一 丹上寺の石塔の形

十三日

一 丹上寺の石塔の形
十四日

十五日

十六日

一 丹上寺の石塔の形

十八日

古澤の寺に詣りて参る

十九日

五月廿三日 江戸参り

廿日

江戸参り 江戸参り

廿一日

廿二日

廿三日

江戸参り 江戸参り

廿三日

江戸参り

十月一

二

中長等御書記官出給候事

三

中長等御書記官出給候事

四

中長等御書記官出給候事

五

中長等御書記官出給候事

六

中長等御書記官出給候事

七

中長等御書記官出給候事

八

中長等御書記官出給候事

九

中長等御書記官出給候事

十二月一日

一本の源書部友所著、融川長良寺

二〇

一〇〇

三〇

一〇〇

四〇

一〇〇

五〇

一〇〇

六〇

一〇〇

七〇

一〇〇

八〇

一〇〇

九〇

一〇〇

十〇

一 糸下 糸下 糸下

十一

十二

一 尾崎 菅野 八木 下 所 芳 吉 村 芳 吉 村 芳 吉

十三

一 黒川 芳 吉 村 芳 吉

十八

一 竹 尾 出 所 芳 吉 村 芳 吉

十九

一 黒川 芳 吉 村 芳 吉

廿

一 大 森 澤 所 芳 吉 村 芳 吉

廿二

一 出 所 芳 吉

長 壽 縣 十 族 丹 羽 祐 之 助

一 注 割 高 澤 用 抄 中 付 候 事

但取極判任准し月終に取付
俣事

廿四日

一 岩浅多所多

廿五日

一 仙波多所多

廿六日

一 吉村貞銀所多

廿九日

一 休

三十日

一 権左多所官並陸軍有上系仕主松海澄
依頼免本官并無出仕

明治十二年一月一日

一日雨天参賀之人負

大書記官井上毅

少書記官横井健盛

中書記官長谷川修敏

七等書記官小野蓋

八等書記官小原澤重雄

八等書記官井上八郎

大書記官
政務官
官

中 知 賢 人
九 等 属 隆 安 徳 寺 印
〇 志 村 貞 鑑
〇 彦 全 剛 寺 印
十 善 属 富 成 知 三

一 二 日 雨
一 三 日 雨
一 四 日 所 務 人 並 野 丹 羽 原 自 行 添
一 五 日
一 六 日

一 七 日 所 務 人 並 寺 留 田
一 八 日 陸 軍 始 行 修 繕
一 九 日 海 軍 始 行 修 繕
一 十 日 本 月 七 日 少 路 等 視 察 後 任 修 繕 不 正
並 陸 軍 政 官 寺 書 官 並 通 不 有 一 身
丹 羽 龍 一 所 務 人 並 寺 留 田 友 寺 留 田 鏡 修 繕 所 務
一 十 一 日 丹 羽 龍 一 記 官 本 月 勤 修 繕
一 十 二 日 無 記 事
一 十 三 日 休 日

一十四日

一十五日 小系澤 重雄所為

一十六日 津用掛本田所為

一十七日 尾崎源 西書記所為

一十八日 丹羽龍之助所為

海書記所為

十九日

一任六等所為

芝野富之助

一任七等所為

井上八郎

石川縣士族

高田七之助

一法制局法用掛中付候事

但名取等外：準三月俸七圓

給与候事

北条門縣平氏

石海直道

一法制局法用掛中付候事

但名取等外：准三月俸七圓

俸事

一 花田文

韓國將士族

南原孝友

韓

東多福士族

青木行倫

一 おり文

左、西負

和田義明
八木下義府

自今月傳 國統興業

三下り

一 権平地官 為陸軍省 七事 仁孝 初臨 登
依願 平官 並 上 仕

一 月 一

一 大書 在 居 井 上 可 系 竹 海 道 長 官 等
之

一 井 上 書 記 官 在 長 官 原 田 孫 兵 衛 等

二日

一休

四

一、此の三父冬より可集り越中より
自年知國貞和田義成中村有三人等
鑑定し、所考より也

少くも生より越中書院より利法
寺の腰書より、馬より至るより

五

一、海書は、此の所考より也

六日

一、山縣良藏より、大正より、
少くも生より、越中書院より、
馬より至るより、
馬より至るより

七日

一、藤藤知三祭日、付ふ、
未終、中、一、定、調

八日

一、草田、孫、美、丹、羽、龍、
少くも生より、越中書院より、
馬より至るより、
馬より至るより

所為

九日

一 明後十日紀元節三日休職
（中略）

十日

一 日曜日休日

十一日

一 紀元節三日休職

十二日

一 法用掛示方等法所為平戸勤見

一 病死者忌月二日あり

一 丹羽謙之由帰郷之由あり竹海遊記
原田新次所為

十四日

一 竹海遊記より所為原田新次所為

十五日

一 大森村通一由母所為有引所為

十六日

十七日

大正
正
日

傳

十

一 所為人所為鬼永井偶年西山
精一

十九

一、田內靈品研考

†
n

[illegible]

寸石

一、所學行誼

廿二

1
 2
 3

休日

廿九日

三月

四日十等局高知三任願免市安
五日皮用村
六日元老院幹事堤内任勲系下師
敏鍾並任法制局副長官
七日外務省大書記官望任海軍少將
任大政官大書記官法制局事務被作
付書之

左政官大書記官望任櫻井健盛並任
中務省大書記官
本日高下成

口口
大書記官望任

權大書記官望任
少書記官望任

地籍官望任

八日九等局長高知三任願免市安
會談法用村被仰付書之

是川学也亦多之少人急之也

唐史高第

中山志之助

一 法制局内用掛中付参事

但参事等外之准之月俸廿月

参事等外

一 九

山口縣士族

河本秀之進

一 出改官参事等外由一付候

太政官少書記官後任山崎直胤

並任之部少書記官

之部少書記官以崎直胤

英國勳勳電信會社社長堤祐作付

出参

一 山縣良範少書記官初任主事

大正

一 参事等外七等参事少原澤地等

月俸廿月

十九

一考本行備事之責在在分之事
子村より玉芳へ御事

一又法方より副長官へ御事

十九

一副長官より日へ御事

陸軍省の徳利中務局へ若中務
局長へ御事

一由務の局長へ御事
才へ

法
二十四

一新酒販賣同金銀公債証券法

一酒法本部の環球通商所へ御事

一市中銀行へ御事

一鴉片煙規則へ御事

一五件へ御事

一〇日副長官へ御事

一和親省の日本國人に對する法

一縣長より河津へ御事

一〇日副長官より由務省の由務所へ御事

一法方より由務省へ御事

一、又仕方の愛護等物平文抄原書
の條に、係る海江に件 法十卷

廿二

新撰物士族

温口攝孫

法制局御用掛中分書司

但所収書は、明治十七年四月迄の
もの

廿三

一、靜岡市書道館に初巻の書状、新撰
文の書状あり

廿四

城

廿五

一、受付二件 岡部使刑事上書、又内務
省死亡後云々件

上中 海軍方佐刑部云々、云々
上中 海軍方佐刑部云々、云々

副主官、田ノ

愛媛縣、法、七、二、五

の、法、七、二、五

三月、九、二、五

、法、七、二、五

、法、七、二、五

、法、七、二、五

三月、九、二、五

、法、七、二、五

三月、九、二、五

、法、七、二、五

、法、七、二、五

、法、七、二、五

三月、九、二、五

三月、九、二、五

、法、七、二、五

、法、七、二、五

日。到。七。官。の。し。り。も。あ。る。に
海。の。流。も。規。則。的。な。も。の。と。い。ふ。こ。と。

四。月。一。日

一。三。日。三。十。日。附。郵。便。者。五。六。の。保。衛。官。
此。等。の。事。も。あ。る。と。い。ふ。
一。廣。敷。達。一。々。の。事。も。あ。る。と。い。ふ。
一。若。者。

四。月。二。日

一。中。々。の。廣。敷。達。中。行。の。事。も。あ。る。と。い。ふ。
一。由。智。者。の。事。も。あ。る。と。い。ふ。事。

中。行。の。事。も。あ。る。と。い。ふ。事。
轉。任。候。事。

四。月。三。日

一。明。後。の。事。も。あ。る。と。い。ふ。事。

四。月。四。日

一。船。中。の。事。も。あ。る。と。い。ふ。事。
一。原。田。の。事。も。あ。る。と。い。ふ。事。
一。海。に。あ。る。事。も。あ。る。と。い。ふ。事。
一。休。暇。

七日

一 渡道に書記有る所を尋ね
一 明後十日地方を渡す旨を
一 文書に記す

九

一 静内書記有る所を尋ね
一 通人

一 静内書記有る所を尋ね
一 通人

十日

一 静内書記有る所を尋ね
一 通人

一 静内書記有る所を尋ね
一 通人

十一

十二

一 静内書記有る所を尋ね
一 通人

一 静内書記有る所を尋ね
一 通人

一 静内書記有る所を尋ね
一 通人

甲子年

早

以中

一片為之

一、市中村政房、任世才、房、田、市、局、

回子

一 誠不為乞勤

有為升子生

竹竿

本月五日所傳勅奏市方祀祿并
事人子聲榮古吏正指之方

7642

竹中玄賢書

19.

德國刑法學家康平氏撰

渡邊大書記官所勞之處今日ヨリ出勤

甲戌年并送所屬未上并上屬

己の事

甲子年

明子公深名院三郎父、衆口有
公明信と云

中村河原之父、名、百、公、孫、之、成
由、成、之、成

甲子年

中村河原之父、名、百、公、孫、之、成

甲子年

中村河原之父、名、百、公、孫、之、成

中村河原之父、名、百、公、孫、之、成

中村河原之父、名、百、公、孫、之、成

中村河原之父、名、百、公、孫、之、成

中村河原之父、名、百、公、孫、之、成

甲子年

中村河原之父、名、百、公、孫、之、成

中村河原之父、名、百、公、孫、之、成

中村河原之父、名、百、公、孫、之、成

中村河原之父、名、百、公、孫、之、成

甲子年

河原もろし梨もろし

福子姫もろし

別名

由緒あるもの

也

甲子年

の

竹中

あり

甲子年

一

若

一

一

四月廿二日

一

一

一

丁巳年

一 厚田縣負五等之屬也

寶生

体

四九

一
 和合黨勢を分すもの一男依れりといふ
 四國等と神省降りて是を三月廿七日に
 出通なりん

五帝三王之所共由

死

和智義順

木不為

古之所謂

子

一
古之學聖人也

子

五折價平不為一。

女 子 山 上 云

何陋

あるある人出物

五月四日開晴

明後山縣属生油店

五月五日曜

五月六日曜

二時半前出物

二時半前出物

あるある人出物

あるある人出物

あるある人出物

あるある人出物

あるある人出物

あるある人出物

あるある人出物

あるある人出物

あるある人出物

あるある人出物

あるある人出物

あるある人出物

有古鐘之

春日中村の庵
 庵の山形は
 正徳のころ
 庵の山形は
 正徳のころ

又月十日雲ハ時_トある

一
石
子
相
龍
竹
下
布

一、市々志村少事之奉

一
五
日
記
事

一、原亦神祕之至矣
二、木下亦有中者
三、子息

子日龍兮少也
吾獨多矣

市上七位周布以年為所用
掛被印自候車

但願此後
下賜之事
所望上
樂回遠

子月十日

一 子月十日 龍 介 司 法 省 判 官

一 子月十日 龍 介 司 法 省 判 官

子月十日

子月十日

一 子月十日 龍 介 司 法 省 判 官

子月十日

一 子月十日 龍 介 司 法 省 判 官

子月十日

一 子月十日 龍 介 司 法 省 判 官

一 子月十日 龍 介 司 法 省 判 官

一 子月十日 龍 介 司 法 省 判 官

子月十日

子月十日

子月十日

一 子月十日 龍 介 司 法 省 判 官

一 子月十日 龍 介 司 法 省 判 官

一 子月十日 龍 介 司 法 省 判 官

子月十日

五月廿七

一 永井清平 小室のふりかへる。

一 山崎 小室のふりかへる。

一 長岡 小室のふりかへる。

五月廿八

一 黒川 学也 小室のふりかへる。

五月廿九

一 大木 隆一 小室のふりかへる。

五月三十

一 小室 小室のふりかへる。

一 鷹見 達三 小室のふりかへる。

五月廿九

五月三十

休

五月廿七

一 渡書 記官 小室のふりかへる。

一 友常 院二郎 小室のふりかへる。

一 四等 寺中村 小室のふりかへる。

一 小室 小室のふりかへる。

五月廿八

一 幸り山縣良之持定調子事

九月廿四日

之記事

九月二十日

之記事

九月二十日

一 大津の記官井と云云

六月一日

一 大津鍾一と云云

六月二日

一 休日

六月三日

一 判書記と云云

六月四日

一 市中新聞と云云

六月五日

一 石渡直道と云云

六月六日

一 永田義順不参

六月七日

一 菅野室隆轉長尾氏美濃之事

一 澁川長貞不参

六月八日

一 志村貞環不参

六月九日

一 休日

六月十日

一 澁川長貞轉長尾氏美濃之事

一 千村丹中澁川氏之参

一 大森政之参

六月十一日

一 山崎漢吾、守伯父死云々

九月、死云々付参云々

仕参

六月十二日

一 山崎久弥不参

六月十三日

一片園忠都下大森陸下

六月十四日

片園忠都下大森陸下

六月十四日

一月上書此後中より親仕る事
山縣良藏下書

六月十六日

休

六月十七日

大書此後中より親仕る事

三月廿五日

六月十四日

一月上書此後中より親仕る事
熊手居下書

六月十四日

一月上書此後中より親仕る事
前住下書

六月十四日

一月上書

六月廿二日

尾崎大書記官

六月廿三日

日

六月廿四日

休

六月廿五日

尾崎大書記官

六月廿六日

尾崎大書記官

六月廿七日

尾崎大書記官

六月廿八日

山縣良英

山縣良英

六月廿九日

尾崎大書記官

六月三十日

尾崎大書記官

六月

一 休日

七月一日

一 中村省三ハ木下義房ヨリ名ニ出ル
事

七月二日

一 中村省三ハ木下義房ヨリ名ニ出ル
七月三日

一 古澤權大書記官中村省三ハ木下義房
ヨリ名ニ出ル
七月四日

七月四日

一 竹中知賢ハ木下義房ヨリ名ニ出ル
山縣良義ハ名ニ出ル

七月五日

一 滝川長兵ハ木下義房ヨリ名ニ出ル
一 竹中知賢ハ名ニ出ル

七月六日

一 寶田丁ハ名ニ出ル
楊村ハ名ニ出ル

七月七日

一 名ニ出ル
七月八日

七月十日

一 記事

七月十日

一 記事

七月十日

一 永井備平右衛門、又

七月十日

一 記事

七月十日

一 休

七月十五日

一 山崎素紀官、又

一 渡辺玄記官、又

七月十五日

一 渡辺玄記官、又

一 渡辺玄記官、又

又

七月十五日

一 記事

七月十五日

一 千村少郎五右衛門

七月十九日

一 千村少郎五右衛門

七月十九日

一 小倉儀三右衛門

一 千村少郎五右衛門

七月十九日

一 休日

七月十九日

一 坪内少輔五右衛門

七月十九日

一 片岡忠教参事

七月十九日

一 荻野六等参事

七月十九日

一 休日

七月十九日

一 休日

七月十九日

一 休日

青木公

一
霄

五月廿九日

天野權大書記官新設縣下新舊面表
出業一〇八戸

一孝曰子別

七月六日

二 庵翁大士記中不第一也

六下義府將此他之入

有

一五 記事

八月七

一五七

八月二

佈

八月

二五記事

八月

一
休

八
月
五

一云小精之精屈伸之變

八月三日

高田七三郎

八月五

江池子

六

三子以文

八月九日

百十

二兩りり三斗成

百六

五言集

六十一

澤白石好余但月持去而已

奉旨長安川保敏內務寺卿等轉

何四等序

稻葉文定依頼用掛片之字

八月廿一日

任太師安撫書院
周布公卒

任太政官權少書記
岩倉具實

一任大政友權女書記

今村 和子

一任大政友權女書記

光田 三子

法制局事務被仰付女書記

市通奉。宣下女書記

市通奉。宣下女書記

市通奉。宣下女書記

八月廿六

一任大政友權女書記

平田 東助

八月廿六

一任大政友權女書記

九月廿六

一任大政友權女書記

九月廿六

一任大政友權女書記

九月廿六

一任大政友權女書記

九月廿六

一任大政友權女書記

九月十九

一斗記長又

九月十日

一斗記長又

九月十日

一渡過天出北谷大野權大出記長又岩倉
權少出記長又

一六本縣一水野蓋北谷野宮隆内務
省兼勤主長付長又

九月十日

一岩倉少出記長又

一和田義順少出記長又

九月十日

一岩倉少出記長又

一中村政信少出記長又

九月十日

一田内憲晃少出記長又

九月十日

一休日

九月十日

一古川虫記官下等し又

九月十七日

一休日

九月十八日

一廣瀬進一所等し又

九月十九日

一廣瀬進之志村貞親下等し又
一井上六郎等名々他等し又

九月廿日

一廣瀬進一志村貞親下等し又

九月廿一日

一記等し

九月廿二日

一休日

九月廿三日

一秋季 白雲寺祭の日

九月廿四日

一記等し

九月廿五日

一 寺記 長又

九月廿六日

一 渡辺大寺記 官民用済 什物京之寺又

九月廿七日

一 寺記 長又

九月廿八日

一 寺記 長又

九月廿九日

一 休日

九月三十日

一 寺記 長又

十月一日

一 小寺以重隆 黒川寺也 所寄之寺也

寺記 長又

一 寺記 長又 寺記 長又

十月二日

一 大野權太寺記 官今日日出到

寺記 長又

十月三日

十月四日

一内務省事務局より移り来る
但し事務局

十月五日

一内務省事務局より移り来る
十月六日

休日

十月七日

一友寺池田氏より来る
十月八日

十月八日

一在国子別國書局より来る
十月九日

一在瀧川長良氏より来る
十月十日

十月十日

一尾山寺山内書院より来る
十月十一日

十月十一日

一瀧川長良氏山内書院より来る
十月十二日

十月十二日

一岩倉書院より来る

十月十二日

一 和国義順所寄

十月十四日

一 公晒

十月十五日

一 記書又

十月十六日

一 記書又

十月十七日

一 記書又

十月十八日

一 中村政房河北書之由下之由是
其書又

十月十九日

一 小島沢重雄所寄之由之由又

東京府士族

高木盛輔

法別局所用掛申分候事

但之石段利便之由之月俸拾五圓
給與其事

十月七日

一休白

十月七日

一瀬川長谷寺より一休より一休又

大書記官尾崎三良
法制局主事又神戶分社又

十月七日

一太森録々寺より寺より寺より又

大森録々寺

一任内務省出等属

十月七日

一山縣良花寺より寺より寺より又

大森録々寺

一任内務省出等属

一太森録々寺より寺より寺より又

十月七日

一瀬川長谷寺より寺より寺より又

一瀬川長谷寺より寺より寺より又

十月七日

一任一等属
一任一等属
一任六等属

廣瀬進一
片岡忠教
水野 薑

十月廿七

一休日

十月廿八

一平戸新 和田義明 石名一 師之
サトウ

一中打省三 石名一 師之
志打 石名一 師之

十月廿九

一魚大 花権 女 記官 岩倉 具 強
右之通 奉り 宣下 相本 寺 官 為 心
得此 段乃 以 通 志 也

十月廿九 奉馬 庶務

一石名一 師之 石名一 師之
一和田義明 石名一 師之

十月廿九

一和田義明 石名一 師之

太政官大書記官兼内務大臣記官井上 毅

右ノ通奉リ迄
此段ヲ通奉
知サヤ

十
年
十
月
廿

三子記

十月廿七

一片忠教千古心

十一月一日

一、正村貞禎、石谷、一、所、之、一、書、又

十月二日

李氏

青之

天長節、有出刻之者、休中知覺人、
病、玄州之師、所屬、不棄之也、又

青雲

一初曰義順則內害鼎不常之矣

三藏聖教所寄一師之書

一、學業、庸才、所當、一、師、之、長、又

十月

仙波之孫所著一師之書

十月二日

一 記

十月七日

一 小石川寺様 所寄 一 仰 一 支

十月八日

一 鷹見達 三 所寄 一 仰 一 支

十月九日

一 還事 三 所寄

十月十日

一 休

十一月十日

一 記

十一月十一日

一 志村貞鏡 所寄 一 仰 一 支

十一月十二日

一 鷹見達 三 所寄 一 仰 一 支

十一月十三日

一 記

十一月十四日

一 記

十一月十三日

一 此地又

十一月十日

一 休日

十一月十日

一 申村省之千村少郎渡過河之下
宮一處之サ又

十一月十日

一 此地又

十一月十日

一 此地又

十一月十日

一 此地又

十一月十日

一 此地又

十一月十日

一 新嘗祭付休日

十一月十日

一 休日

十一月十日

一 陽用裁平戸部此世常月
十二 追忌引公上節
十二 追忌引公上節

十月廿二

一 陽用裁平戸部此世常月

十月廿二

一 陽用裁平戸部此世常月

十月廿二

一 陽用裁平戸部此世常月
十二 追忌引公上節
十二 追忌引公上節

十月廿二

一 陽用裁平戸部此世常月

十月廿二

一 陽用裁平戸部此世常月

十月廿二

一 陽用裁平戸部此世常月

十月廿二

一 陽用裁平戸部此世常月

十月廿二

一 陽用裁平戸部此世常月

十月廿二

一位大正六等官

山縣良之

右奉日將任新官付付又

十二月五

一任記又

十二月六

元老院書記官後任馬屋系彰

同

同 小野 梓

任太政官少書記官

書記官 馬屋系彰

同

小野 梓

法制局專務被仰付候事

右之通奉日 官下并市道長成候同為

心得此段トヤ

十一月十二日

十二月七

一任記又

十二月八

一任白

十二月九

一任記又

十二月十日

一記

十二月十日

一記

十二月十日

太政官少書記官兼内務書記官徳田綱太郎
任内務權大書記官兼太政官少書記官

右本日 宣下 未半 共 又

志村貞鏡 奉日 宣下 未半 共 又

十二月十日

一記

十二月十日

一記

十二月十日

一記

十二月十日

一記

十二月十日

一記

十二月十日

太政官

三ノ部

十二日

三ノ部

十二日

三ノ部

十二日

三ノ部

十二日

一ノ部

十二日

一ノ部 村權少書記官内京より奉り

出ノ部

十二日

三ノ部

十二日

一ノ部 戸部卿内長澤田長

出ノ部